

小学4年1組 図画工作科学習指導案

指導者 三 桐 撰 夫

絵に表す活動において、表し方のよさについて学級全体で学び合う場を設定したことは、発想や構想を深めたり、広げたりし、表現意欲を高め合うことに有効であったか。

1 題材名 世界に一つの私の木をかこう ～墨を生かして～

2 授業の構想

(1) 本学級の子どもたちは、3年生の頃、身近な自然の中にある草花を好みに合わせて集め、家庭で見つけてきた小さな容器に生け花として構成し、それを丁寧に描くという活動を体験している。

自分が美しいと感じるものを見つけて選び出し、組み合わせ、より美しく再構成する過程で、友だちが集めた草花や生け花の作り方に、自分にはないよさを見つけ出して興味を持つ様子が見られた。「その草はどこにあった？いいなあ。教えて。」「水に浮かべるときれいだね。私もやってみていい？」と友だちとかかわり合い、必要感を持って素材を集めたり、よりよい表し方を取り入れたりして、自分の造形表現を工夫して楽しんで活動に取り組んだ。自分の作った作品に満足する姿が表れた。

4年生1学期に行った人物を描く学習活動後、次のようなふりかえりがあった。

今日、図工で自分の絵をかいていて、「あれ、なんかちがうな～」と思いました。よく見ると、顔の形がちがうなあと感じました。丸顔なのに、四角い感じになっていたからです。そういう細かいところから感じ取れるものがあっておもしろいです。鏡をよーく見て、細かいところをたくさん発見したいです。(児童A)

今日、図工で自画像の色ぬりをしました。はいけいの色をぬりました。色をぬる時に工夫した所は、少し色を変えることです。私は、黄色のあとにきみどりやオレンジをぬりました。すてきになりました。はいけいの色をぬったら、絵がいきなり明るくなってよかったです。はいけいは、絵の中でぬる面せきが一番大きいので、絵の印象を変える大事な所だと思いました。(児童B)

絵に表す活動において、自分の考えを生かしながら、対象をじっくり観察し、色や形の特徴を細かくとらえていることが分かる。一本の線を大切に描いたり、色を組み合わせ丁寧に彩色しようとしたりする意欲や態度が感じられる。

このような子どもたちの姿から、これまでの素材体験に個人差はあるものの、自分の感性を働かせながら素材の特徴を味わい、美しいと感じるものや自分が表したいことに必要な表し方を、素材や友だちと向き合う中で意欲的に見つけ出すことができる力を感じる。身近な素材や活動環境の中でも、子どもの一人ひとりが自分らしい造形表現を追求することができると思う。

(2) 本題材では、学校生活の場にもある身近な木をモデルにして、墨や絵の具、筆や刷毛やローラーなど多様な用具を生かして描く活動をする。木という身近でありふれたものについて、感性を働かせながらじっくりと見つめる中で気づいた面白さと、墨の表現について、試行錯誤から見つけ出した自分なりによいと考える表し方を結びつけて、自分が表したいことを追求し、作品にしていく活動である。

その中で友だちとかかわり合い、多様な考え方や見方や表し方を共有することで、絵に表す活動や鑑賞についての感性などが高まり、造形表現における思考力・判断力・表現力が育成されるものとする。

そのために、子どもが自分や他者の学び方や表し方のよさを肯定的に認め合う姿や、表現しようとする事に向かって試行錯誤をくり返しながら、発想や構想を見つめ直し、工夫を重ねて、より豊かな表し方にせまろうとする造形活動を進めたいと考え、本題材を構想した。また、色や形に関わるイメージや、表そうとしていることの意図や、考えや理由を自分なりに表す言葉に着目する。自分の表したいこ

とや仲間が表そうとしていることを感じ取り、色や形を手がかりにして伝え合うようにかかわり合い、学級全体で学び合う場を設定することが、本学級の児童の感性を高め、発想や構想に深まりや広がりを与え、造形活動を豊かに展開させるためにつけていく力につながると考えられる。

また、教育研究ブロック初等部後期の子どもたちに、自分を取り巻く「ひと・もの・こと」について主体的に関わり、他者と見方や考え方についてかかわり合う活動を設定する。そして、自分自身の表現意図と関連づけたり、選択して取り入れたりする活動を意図的に設定することは、中学校を含む中等部ブロックでの、自分の考えを確かに持ち、相互評価を取り入れながら高め、習得した知識や技能をもとに自信を持って取捨選択して、造形表現する子どもの姿につなげることができると思う。

(3) 本題材は、第3・4学年の目標(2)、内容A表現(1)ア、イ、A表現(2)、B鑑賞(1)イ、そして〔共通事項〕(1)ア、イに即している。また、紙や水彩絵の具をはじめとして、クレヨンやパス、多様な表現効果を生み出す素材や用具に対する経験を重ね、扱いに十分に慣れ親しみ、以降、新たに出会うものについて適切に扱うことができるようにする上でも大切に考えたい活動である。

以上のような本題材および教材のもつ性質と、本学級の児童の実態をふまえた上で、単元を次のように展開する。

第1次では、墨と多種多様な道具に出会わせる。一見描画と関係のないように感じる用具も、手に取り観察させることで、「この道具を使ったらどんな線が描けるだろう。」という興味・関心を高めたいと考えた。そして、十分に手や体の感覚を働かせて描いた墨の線や形、模様やそれらから得られるイメージをもとに、友だちの感じ方やとらえ方と自分の感じたことについて伝え合う。「予想しなかった線が表れた。」「この模様はどの道具をどのように使ったら表せるのか。」ということに気づいた子どもたちは、表現への意欲を高め、自分が表したいことにぴったりの描き方を思いついたり、別の表し方の可能性を発見したりするだろうと考えた。友だちとかかわり合い、自分の表現のよさを価値づけられる中で、にじみやぼかしの効果や様々に描いた線がもたらすイメージからさらに発想し、以後の制作に関わる表現主題についての構想を深めたり広げたりしていくことができると考えた。好奇心旺盛で、既成の概念にとらわれずに豊かに発想する中学年の児童にとって、また、他者との関わりの中で思いを語り合い発想を広げていく初等部後期ブロックの児童の特徴において、上記のねらいを達成していくために効果的な学習活動が期待できる。

第2次では、試行錯誤の中から生み出された多種多様な墨の線や模様から、そして、モデルとして観察した木の特徴からイメージをふくらませる。そして、自分の構想に合わせて表し方を選んだり、組み合わせたり、新たな発想をつかんだりしながらスケッチや下書きを行う。必要に応じてできあがりの作品の例を示し、その作例で扱っている画材も子どもたちの制作の展開や必要感に合わせて提示することとした。このことから、できあがりの方向性をつかみ、活動の展開を明確にしながら安心して自分が描きたい木のイメージをふくらませることができると考えた。

さらに、描き始めている「私の木」について、気づいたことや感じたことを友だちと分かち合い、形や線の面白さを学級全体で十分に味わいながら彩色を楽しみながら行えるように関わる。この時期、効果的な彩色ができることをねらいとして、子どもたちに、表したいことの意図を明確にさせたり、別の視点から作品を見つめられるように提案したりするようはたらきかける。また、作業に必要な画材を吟味して揃えておく。

第3次では、作品全体の調子を整え、幻想的な雰囲気や味わいを深めるために、水性のインクを用いて墨流しの活動を行う。一度塗りつぶした自分の作品が、流水の効果で再び表れるとき、自分の表現が一段と効果的に表れている様子に気づき、にじみやぼかしの独特な効果を生み出す流水の当て具合やインクの落とし加減に、子どもたち一人ひとりがこだわりを持って取り組むことができると考える。

そのために、このにじみやぼかしの効果を生かす墨流しについても、事前に試すようにさせる。同じ絵を子どもたち全員に手渡し、それぞれ墨流しを体験させ、その効果や表し方を体験させる。共通の絵でありながら、最後に表れた作品はどれも個性的で、それぞれに興味深い表現効果を見つけ出すことができるだろう。学級全体でその表現方法を味わい、その中から自分の作品にあったものを選び出すこと

で、必要感を持って、その表し方を友だちから探り出したり、自分の表し方を伝えたりする子どもの姿を引き出すことができると考えた。

本時では、まず、学級全体で一つの墨流しの表し方について鑑賞し考えを伝え合う。「どのように感じたのか」「どこからそう感じたのか」など根拠を明らかにしながら、にじみやぼかしから感じられるイメージ、色や形の特徴を言葉にする。そういった児童の言葉と言葉をつないでいくことを大切にする。

自分や友だちの表し方やその意図を十分にとらえることができれば、その後の墨流しの活動の中でも子どもたちは、「その表し方はどのくらい水を流したらでるのかな」というように、自分の作品に向かう中で、必要感を持って仲間に関わろうとする姿が期待できる。

ふりかえりの場では、活動の前後でイメージがどのように変化したかなど、ワークシートを用いて文章化し、自分の考えを確認したり新たな構想をつかんだりすることで、「もっとよくしたい。」「今度はこんな工夫をしたい。」という意欲を喚起していく。

第4次ではニス塗布するまでの仕上げの活動をおこなう。作品の完成に向けての活動を展開する中で、子どもたちが表したいことや表し方についてのこだわりを大切に保つように価値づけたり認めたりするはたらきかけを心がける。児童のアイデアや構想は常に更新され続けていくものだと考える。

3 展開計画(全9時間 本時8/9)

次	主な学習	時	具体的な学習・内容(◇印は、学級全体の学び合いの場面)
1	「墨」から線や模様を生みだそう	1 2	・多種多様な用具と墨を生かして、線や模様を試行錯誤しながら描く。 ・表し方の面白さや効果を味わい、表したいことの発想や構想をねる。
2	「世界に一つの私の木」をかこう	3 4 5 6	・木の形の特徴から構想したことをもとに、墨の線や模様の効果を生かしながら楽しく表現し、作品を描く。 ・自分の作品を特徴づける効果的な彩色を考え、行い、自分の意図や考えと友だちの見解を比較しながら、自分の表し方の参考にする。
3	墨流しの効果のよさを生かそう 「水が研ぎ出すいい感じ。」	7 ⑧	・流水による墨流しの効果を生かし、作品の調子を整える。 ・墨流しの試作品をみんなで見合う。 ◇表し方のよさを友だちと共に見つけ出し、自分の作品に取り入れる。 ・墨流しの効果を全体で共有し、自分の作品に合った表し方を選び出す。
4	あざやかに仕上げよう	9	・仕上げを行い、水性ニスで表面に光沢を出す。

4 評価計画

次	時	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	1 2	墨で描いた線や形、その組み合わせからできる模様などのよさや面白さを、感じようとしている。	用具の扱われ方と描かれた線や形、模様とを関連づけてとらえ、多様な表現を見つけるために工夫し、よさを見つけ出そうとしている。	用具の扱い方や墨の特徴をとらえて、多様な線や形を描いたり、その組み合わせから模様を描き出したりしている。	感性を働かせて線や形、模様のイメージをとらえ、自分なりの言葉でそのよさや面白さを伝えたり、記録したりしている。
2	3 4 5 6	自分らしい表現になるように、描きたいものの構想に沿って、工夫しながら製作しようとしている。	描かれた線や形、模様から発想したこと、あるいは観察した木の特徴をいかして構想したことをもとに、取捨選択をしながら考えを広げている。	画材や用具の特徴を生かしながら、自分らしい表現にこだわって描いたり彩色したりしている。	自分や友だちの表現の面白さを味わいながら、改善点やよさに気づいたり友だちに伝えたりしている。
3	7 ⑧	墨流しの効果を味わい、友だちの表し方に関心を持って見たり聞いたりして楽しんでいる。	墨流しの効果を作品の特徴と関連づけながら、自分の作品にあった表し方を見つけ出そうとしている。	墨流しの流水の当て方や強弱を工夫し、表したい感じをとらえて作品の調子を整えている。	友だちの表し方の面白さを見つけたら、自分の表し方について自信を持って紹介したりしている。

4	9	お互いの作品よさを進んで味わおうとしている。最後まで丁寧に仕上げようとしている。	むら無く均一にニスを塗ることが出来る。	お互いの作品を見合い、よさや面白さを伝え合ったり記録したりしている。
---	---	--	---------------------	------------------------------------

5 本時の学習

(1) ねらい

- ・墨流しの効果を生かして自分なりに表したいことや、友だちの表し方に注目して、よりよい方法を探り、互いの考えを伝え合うことができる。
- ・墨流しの効果を生かして表す方法について工夫を出し合うことで、効果的な表し方を高め合うことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 前時をふりかえり、本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>2. 墨流しの試作品をみんなで見て、雰囲気の色や効果のよさを探り出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時につかんだ表現しようとしていることについて、ワークシートや試作品を用いて確認する。 ・作品から感じたことを言葉で伝え合うことができるように、絵から受ける印象やイメージを形や色を手がかりに拾い上げる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分の作品に合った墨流しの表し方を見つけて作品に表そう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・黒い木の上にある葉っぱの色が明るく目立つように、まわりをぼかした感じにしたいな。 ・どうやったらこんな感じにできるのか、やり方を教えてほしいな。 ・木の枝の形がねじれているのが力強く見えるよ。どこでそう思ったかという…。だから、ここははっきり見えた方がいいと思うよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分なりのとらえ方に沿った具体的な説明や、根拠や理由を伴う意見のよさを認める。 ・部分的にあるいは全体的に作品をとらえ、イメージを喚起する形や色の特徴に気づくようにする。 ◎理由や根拠を問い返しながら、意図を明らかにするように促す。
<p>3. 見つけた工夫を生かして墨流しをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の勢いを弱くして流すと、少しずつインクが取れて、丁度いい所でやめられるよ。 ・スポンジでたたくようにしてみたら、下から浮き出てきていい感じだよ。 ・霧吹きで流す方法がいいと思ったのでやってみるよ。 	<p style="text-align: center;">——— 評価の観点（発想や構想の能力） ———</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>墨流しの効果を作品の特徴と関連づけながら、自分の作品にあった表し方を見つけ出そうとしている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 観察・発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいことの意図に沿うように技能的な支援を行う。 </div>
<p>4. 本時をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えがかわったので、友だちの方法でやってみたら、自分の作品に合う感じが出せたよ。 ・友だちにほめてもらったのでうれしかった。アドバイスをもらったので、自分の作品に合う方法が見つかった。 ・自分と友だちの考えでどちらがいいか迷った。 ・自分では気がつかないことを友だちは気づいていてすごかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎よりよい表し方や追求姿勢のよさを学級全体で共有し、意欲を高める。 ◎事前の記録と比較しながら、表現の広がりや深まりを意識できるようにする。 ◎より効果的な墨流しの方法を獲得するなど、コミュニケーションをしたことが表したいことにつながる上で有効であったかを問い、そのよさを確認できるようにする。 ・友だちの考えとともに自分が積み上げてきた考えを大切にできるようにする。